

阿賀野川の河跡

北区に残る阿賀野川の河跡

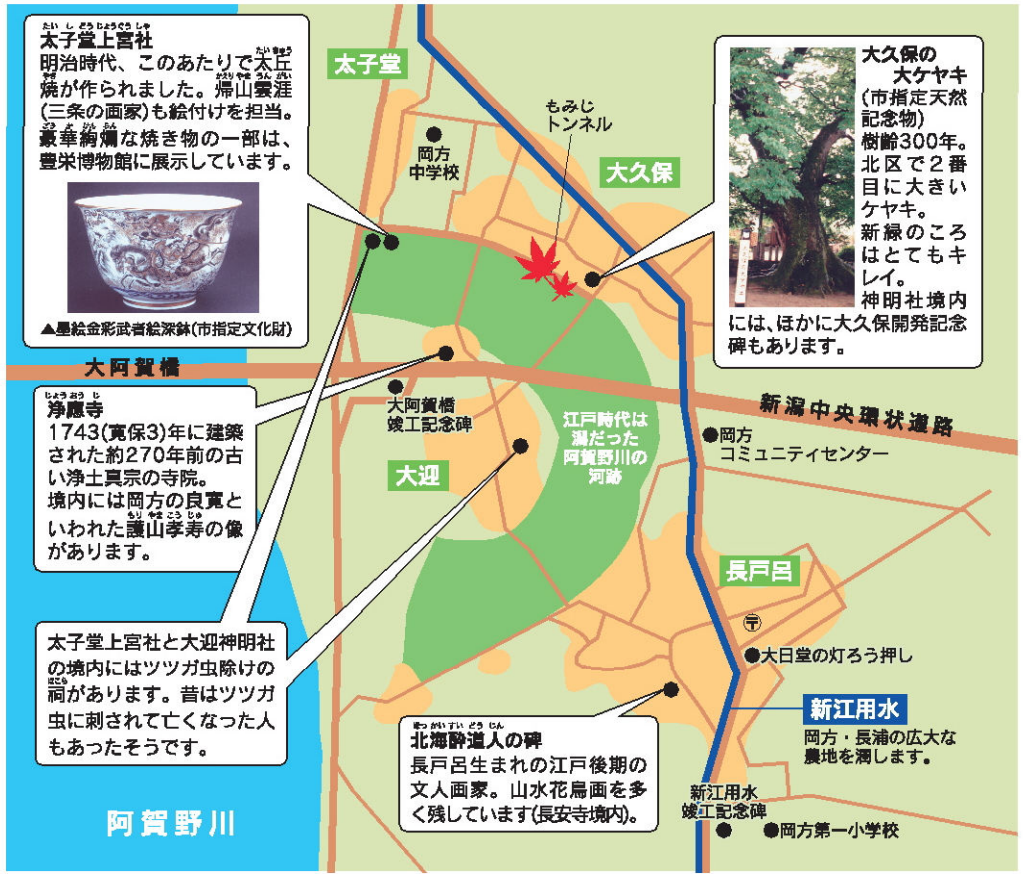
阿賀野川は、現在の堤防ができるまでは暴れ川で、洪水などによりたびたび流路が変わりました。岡方地区にある十二瀧は、もともと阿賀野川の流路の一部で、それが三日月湖(瀧)になって残ったものです。たくさんある河跡の中で、唯一水面を保つ貴重な三日月湖です。

もう一つの河跡

岡方地区には、ほかに阿賀野川の乱流蛇行を良く伝える地形が残っています。太子堂～大久保～長戸呂と大迎の集落の間にある三日月形の低地帯です。

現在は、水田になっていますが、江戸時代の絵図を見ると、ここに「長戸呂瀧」と呼ばれた瀧がありました。十二瀧よりも古い時期にできた三日月湖です。当時は、用水として利用したり、漁も行われていたりしましたが、だんだんと水田が変わっていったようです。

周辺の集落は古くから開発されているので、見どころもたくさんあります。新緑や紅葉の季節に、太子堂から大久保の旧堤防の道を歩いてみませんか。



新井郷川を走っていた川蒸気船



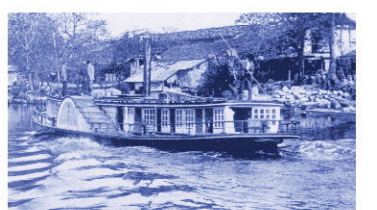
川蒸気船

新潟～葛塚間の新井郷川に蒸気船が定期的に走り始めたのは1875(明治8)年からです。

1902(明治35)年、新潟安進社という会社が「安進丸」2隻を就航させ、人々はこれを「葛塚蒸気」と呼び親しまいました。

蒸気船は、新潟の萬代橋付近を出発し、沼垂から通船川を経て阿賀野川を渡り、新井郷川へ入り、松浜、名目所、濁川、兄弟堀に寄航し、葛塚の下他門に到着しました。行程は約26km、約2時間半を要しました。一時は天王まで航行され、蒸気船特有の外輪をガラガラと回転させて航行したそうです。

しかし、鉄道や乗合バスなどの陸上交通の発達により、昭和初年に姿を消しました。

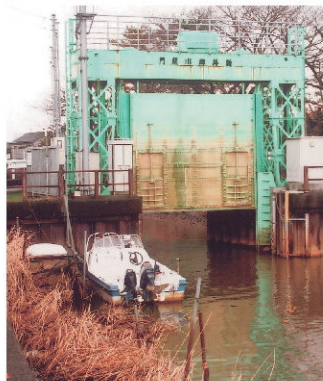


▲新井郷川を往く川蒸気船(他門付近) 新潟市立図書館蔵

北区だけを流れる新井郷川

新井郷川は、福島瀧から流れ出る唯一の川で、全長13kmあります。昔は、現在の新元島町付近から阿賀野川に流れ出ていました。

この川は、上流と下流の高低差が少ないため流れはゆるく、阿賀野川の水が逆流して水害が起こるので、松浜地内の砂丘地を開削する大改修工事で、1934(昭和9)年に直接日本海へ流しました。



▲新井郷川開門(三軒屋町)

新井郷川開門

新井郷川の古い川筋に、1931(昭和6)年に建てられた開門があります。開門は、水位の異なる川に船を通すエレベーターのような施設のことで、新潟～葛塚間に物資や人を運ぶ船を通しつつ、ほとんどの川の水が直接日本海に流れるようにも機能しました。

現在、開門機能はありませんが、当時の様子を偲ぶことができます。